

## 令和2年度 知識集約型社会を支える人材育成事業審査結果

大学等名	新潟大学	整理番号	1
メニュー	メニュー I 文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム		
事業計画名	全学分野横断創生プログラム		

### [採択理由]

本事業計画は、当該大学がこれまで構築してきた主専攻・副専攻プログラムを最大限に活用し、主専攻プログラムが、それぞれ全学に向けて「マイナー学修パッケージ」を提供することで、主専攻を学びながら、他分野を副専攻として学ぶことができる柔軟なプログラムを構築し、これにより学問分野の魅力的な掛け合わせを実現するものである。

本教育プログラムは、全学部が参画することにより、総合大学である当該大学の教育資源を有効かつ十分活用し、36の多様な副専攻プログラムを用意することで、学生一人ひとりの学びの意欲に幅広く対応できる設計になっている。アカデミック・コーディネーターの継続的なリフレクションによる伴走型の学修支援を行うことで、学生が個々の関心に基づいて主体的に学修に取り組むことはもちろん、専門的、客観的観点からのアドバイスを適宜加えることで、社会的ニーズにも対応した学びをデザインできる仕組みも兼ね備えている。ルーブリックを活用し1年次から4年次にかけての学修プロセスを総合的に評価することとしており、教育効果の観点から上述の取組の成果の測定に資する仕組みが用意されている点も、高く評価できる。

本事業計画では「教養教育と専門教育を区別しない」としているが、これが実質化されれば、学士課程教育の在り方に一石を投じる可能性があり、我が国の高等教育にとって先進性を有するものであると評価できる。また、全学分野横断のカリキュラム構築や、学修成果を可視化するためルーブリックと学生との対話を用いる複線的な成果評価の手法、全学を巻き込んだ教学マネジメント改革は、新しい総合大学の在り方を高等教育全体に提示するものになると期待される。事業成果の普及についても、「全学分野横断創生プログラム」で得た成果に関する書籍を出版し、全国の高等教育機関にガイドブックとして活用してもらうことを計画しており、1大学内の取組という枠を超えた展望を持つものとして評価できる。

本事業計画は学士課程を対象としているが、本事業における取組と並行して分野横断型の大学院を充実させることとしている。本教育プログラムを修了し卒業した学生の更なる学問への関心を学部教育で閉じることなく、大学院教育というキャリアパスを提示する考えを持っている点は、学修者本位の教育プログラムとして評価できる。また、本教育プログラムにより、学生が他学部へ移動することで教員間の交流の活性化にもつながると考えられ、学生のみならず教員レベルでの文理融合も促進されることが期待できる。

以上のことから、当該大学の事業計画はこれまでの実績を踏まえ、「幅広い教養と深い専門性を両立した人材の育成」と「全学的な教学マネジメントの確立」という今回の事業趣旨に合致した内容であると認められるものであり、着実な計画の実施が望まれる。